

(別紙様式3)

平成31年3月29日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 様

住 所 千葉県千葉市中央区市場町1-1
管理機関名 千葉県教育委員会
代 表 者 澤 川 和 宏 印

平成30年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成30年4月2日(契約締結日)～平成31年3月31日

2 指定校名

学 校 名 千葉県立佐倉高等学校
学校長名 上市 善章

3 研究開発名

「日本の歴史・伝統・文化を踏まえて多文化共生社会を構築するグローバル・リーダーの育成」

4 研究開発概要

千葉県立佐倉高等学校の目指すグローバル・リーダーに必要な資質・能力等を育成するために、普通科生徒全員を対象に課題研究を「GL探究」において実施し、グローバルな社会課題についての研究に向けた取組と英語での中間発表を行う。加えて、学校設定教科「グローバルラーニング」、海外研修、大学や企業等と連携した講座や国内研修等を実施し、課題研究に向けた取組の深化とグローバル・リーダーに必要な資質・能力等の育成を図る。また、国内外の研修や留学生等との交流を通して異文化理解の深化やコミュニケーション能力の向上を図る。平成28年度末に1年生が「海外に自信をもって発信できる日本の歴史、伝統、文化を語れるようにする、研究したいグローバル社会における課題を見つける、英語でプレゼンテーションができるようにする、課題研究の進め方を理解する」ことができることを目標とした。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導協議会				○				○				○
事務補助員						○	○	○	○	○	○	○
千葉大学との 連携支援				○	○	○		○			○	○
学校訪問 事業視察				○				○				○

(2) 実績の説明

ア 運営指導協議会

次の5名に運営指導協議員の委嘱を行った。

片岡 寛	一橋大学 名誉教授
岡田 民雄	日本ルツボ株式会社相談役 (前会長)
阿古 智子	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 准教授
藤井 剛	明治大学文学部 特任教授
足立 欣一	千葉大学高大連携室 特任教授

平成30年度は、運営指導協議会を3回開催した。

- (ア) 第1回運営指導協議会 (平成30年7月18日 千葉県立佐倉高等学校)
管理機関からの出席者 山辺振一郎 (千葉県教育庁教育振興部学習指導課主幹兼学力向上室長)
小西 一央 (千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事)
- (イ) 第2回運営指導協議会 (平成30年11月20日 千葉県立佐倉高等学校)
管理機関からの出席者 山辺振一郎 (千葉県教育庁教育振興部学習指導課主幹兼学力向上室長)
小西 一央 (千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事)
- (ウ) 第3回運営指導協議会 (平成31年3月18日 千葉県立佐倉高等学校)
管理機関からの出席者 山辺振一郎 (千葉県教育庁教育振興部学習指導課主幹兼学力向上室長)
小西 一央 (千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事)

イ 事務補助員の雇用

平成30年9月1日から平成31年3月31日まで、1名雇用した。

ウ 千葉大学との連携支援

平成30年4月にスーパーグローバル大学である千葉大学と本年度も継続して連携し研究開発に取り組むことを千葉大学高大連携担当と確認した。主な連携支援は次のとおり。

- (ア) 国際教養学部 和田健准教授, 小林聡子助教, ガイタニデイス・ヤニス助教及び高大連携室 足立欣一特任教授による千葉県立佐倉高等学校研究開発に係る指導・助言
- (イ) 国際教養学部 小林聡子助教による生徒の課題研究の指導・助言 (個別対応)

エ 学校訪問・事業視察

- (ア) 学校訪問 (平成30年7月18日 千葉県立佐倉高等学校)
SGH事業の進捗状況について確認し、指導・助言を行った。
管理機関からの出席者 山辺振一郎 (千葉県教育庁教育振興部学習指導課主幹兼学力向上室長)
小西 一央 (千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事)
- (イ) 事業視察 SGHに係る総合的な学習の時間視察 (平成30年11月20日 千葉県立佐倉高等学校)
GL探究 (総合的な学習の時間) の実施状況及び生徒の活動状況を視察し、指導・助言を行った。
管理機関からの出席者 山辺振一郎 (千葉県教育庁教育振興部学習指導課主幹兼学力向上室長)
小西 一央 (千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事)
- (ウ) 事業視察 課題研究発表会視察 (平成31年3月18日 千葉県立佐倉高等学校)

SGH課題研究発表会のポスター発表及び口頭発表を視察し、指導・助言を行った。
 管理機関からの出席者 山辺振一郎（千葉県教育庁教育振興部学習指導課主幹兼学力向上室長）
 小西 一央（千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事）

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導協議会の開催				○				○				○
校内の研究体制整備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携機関との連携計画作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
課題研究に関する教員研修	○								○	○		○
課題研究「GL探究」	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育課程の編成（地歴・公民）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育課程の編成（GLアクティブ）			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国内グローバル研修						○	○					
海外グローバル研修実施				○	○	○		○				○
海外グローバル研修検討・計画作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大学との連携	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
企業・国際機関との連携			○	○	○	○	○	○	○			
教育課程の編成（外国語）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
英語力向上対策講座等			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
地域や同窓会との連携					○		○			○		

(2) 実績の説明

年間を通してSGHの対象となった生徒数854名（普通科第1学年287名 第2学年285名 第3学年282名）

ア 研究全体の環境整備と研修

(ア) 運営指導協議会の開催

- ・平成30年7月18日，11月20日，平成31年3月18日に開催した。
- ・課題研究の方法と進め方，成果の発信，評価方法等について指導・助言を受けた。

(イ) 校内の研究体制整備

- ・研究の方向性や計画について検討する「SGH推進委員会」，SSHとの共同研究等について検討する「SGH拡大委員会」，研究開発を進める上での具体的な計画を立てて運営する「SGH実務担当チーム」，研究開発を進める上での具体的な運営を補助する「SGHサポートチーム」を編成し研究体制を確立した。

(ウ) 連携機関との連携計画作成

- ・千葉大学国際教養学部と連携し，研究開発の指導・助言，職員研修，講師の派遣等を計画

- ・東京大学・東京外国語大学・筑波大学と連携し、模擬講義及び研究室訪問等を計画
 - ・国立歴史民俗博物館と連携し、博物館の利用及び講師の派遣等を計画
 - ・日本政策金融公庫、JICA、DIRECTFORCEと連携し講師派遣を計画
 - ・シーボルトハウスと連携し、オランダでの交流校及び研修について計画
 - ・クレアシンガポール事務所及びセントジョセフインスティテューションと連携し、シンガポールでの研修について計画
 - ・ナンボークリスチャンカレッジと連携し、オーストラリアでの研修について計画
 - ・ツェツィリアンギムナジウムと連携し、ドイツでの研修について計画
 - ・クレアロンドン事務所及びホリポートカレッジと連携し、イギリスでの研修について計画
- (エ) 課題研究に関する教員研修
- ・職員研修を学年ごとに実施するとともに、SGH校等で実施している課題研究発表会等の視察結果の報告会を11月に行い、課題研究の在り方について研修を実施
- イ 課題研究「GL探究」(研究開発1)
- 普通科第1・2・3学年(各7クラス)を対象に、総合的な学習の時間で実施
- (ア) 第1学年対象
- a 「ガイドダンス」(12時間) 1年次の到達目標の確認と課題研究の進め方についての説明、国立歴史民俗博物館の利用方法、海外研修経験者の報告、課題研究の方法の学習等を実施
 - b 「課題研究のテーマ等を決める」(6時間) 日本政策金融公庫職員による講義及びSGH担当職員によるワークショップ、研究テーマごとにグループを構成し、研究テーマの設定理由・仮説・具体的な研究方法等について検討等を実施
 - c 「課題研究発表会に向けて」(15時間) グループ単位で研究を進めるとともに、プレゼンテーションに向けて準備、第2学年理数科生徒のSSH課題研究の発表を行いポスター発表の方法も習得
 - d 「講演」等(2時間)
 - ・JICA海外ボランティア経験者及びDIRECTFORCE授業支援の会2名による海外での活動から見るグローバルな課題についての講演会を実施
- (イ) 第2学年対象
- a 「課題研究を進める」(10時間) グループ単位での研究の見直し、日本政策金融公庫講演及び相談会(ビジネス課題対象)を実施し、フィールドワークの計画を立てる。
 - b 「課題研究報告書作成及び発表会に向けて」(16時間) グループ単位で調査結果を分析し、結論・提言をまとめるとともに、プレゼンテーションに向けて準備を行った。
- (ウ) 第1・2学年対象
- a 講演(1時間) 「ポピュリズムと多文化共生」(千葉大学法政経学部水島治郎教授)
 - b 「海外研修報告」(2時間) イギリス、ドイツ、オーストラリア、シンガポール研修の報告
 - c 「互いのプランを深め合うクラス発表会」(3時間) グループごとに課題研究のポスター発表を行い、海外からの留学生が助言及び評価を実施
 - d 「SSH・SGH合同課題研究発表会」(4時間) 「SGH課題研究」で選ばれたグループの発表とSSHの発表を実施
- ウ 教育課程の編成「学校設定教科グローバルラーニング(GL)」(研究開発2)
- (ア) 地理歴史・公民分野の学校設定科目(GL科目)
- ・学校設定教科「グローバルラーニング」に学校設定科目「GL世界史」(普通科1年4単位)「GL地理」「GL日本史」(普通科2年4単位)を設定、グローバルな社会課題を歴史的観点・地理的観点から考察する内容の授業を実施
- (イ) 「GLアクティブ」(週時程外に実施)
- ・『世界高校生水会議「Water is Life 2018」』(平成30年7月24日～28日、渋谷教

- 育学園渋谷中学高等学校及び渋谷教育学園幕張中学高等学校) 普通科2学年4名参加, 世界18か国の高校生とディスカッション及び課題研究プレゼンテーションを実施
- ・『高校生によるまちづくりワークショップ』(平成30年8月10日, 佐倉市役所) 佐倉市の現状と課題について把握し, 課題解決に向けたワークショップを実施
 - ・『醸造文化, 地域活性化を学ぼう』(平成30年8月22日, ちば醤油(株)・佐原重要伝統的建造物群保存地区) 普通科第1・2学年17名参加, 受け継がれてきた日本の醸造文化と地域との関係について学習・調査
- エ 国内グローバル研修(研究開発3)
- 英語宿泊研修(平成30年10月1日~10月3日(2泊3日)体験型国際研修センターブリティッシュヒルズ)普通科第1学年85名参加, 英語での生活を疑似体験, 指導の下課題研究について英語でのプレゼンテーションを実施
- オ 海外グローバル研修(研究開発4)
- (ア) オランダ派遣(平成30年11月15日~11月25日)
- ・普通科第1学年5名参加(事前研修18回実施), シーボルトハウス, 国立民族学博物館等で調査, ライデン大学での交流, ドラードカレッジにて国際青少年会議に参加
 - ・平成30年12月21日, 第1学年生徒対象に報告会を実施
- (イ) オーストラリア短期研修(平成30年7月20日~8月3日)
- ・普通科第2学年20名参加(事前研修15回実施), ナンボークリスチャンカレッジにて課題研究発表, 研究テーマについてディスカッション, クイーンズランド大学での模擬講義, 大学生とのグループトーク等を実施
 - ・平成30年10月9日, 第1・2学年生徒対象に報告会を実施
- (ウ) S G Hシンガポール海外研修(平成30年9月12日~9月15日)
- ・普通科第2学年11名参加(事前研修16回実施), フィールドワーク(現地企業, イスラム寺院, ナショナル・ミュージアム等), クレアシンガポール事務所で課題研究の助言を受け, セントジョセフインスティテューションを訪問し, 課題研究発表, 研究テーマについてディスカッションを実施した。
 - ・平成30年10月9日, 第1・2学年生徒対象に報告会を実施
- (エ) S G Hドイツ海外研修(平成31年3月13日~3月19日)
- ・普通科第2学年11名参加(事前研修15回実施), ツェツィリアンギムナジウムにて課題研究発表, 研究テーマについてディスカッションを実施, デュッセルドルフ大学学生とのグループトーク, デュッセルドルフ市庁訪問, フィールドワーク(J E T R Oデュッセルドルフ, ケルン大聖堂等)
- (オ) S G Hイギリス海外研修(平成31年3月22日~3月29日)
- ・普通科第2学年12名参加(事前研修15回実施) 現地の調査, クレアシンガポール事務所で課題研究の助言を受け, ホリポートカレッジにおいて交流, 同校生徒及び現地大学生を相手に課題研究のプレゼンテーションやディスカッションの実施
- カ 大学との連携(研究開発5)
- (ア) 千葉大学
- ・『歴博+千葉大留学生プロジェクト見学』(平成30年8月2日, 国立歴史民俗博物館) 千葉大留学生のプレゼンテーションとディスカッション, 普通科第1・2学年10名参加
 - ・『千葉大学環境ISO学生委員会について知ろう』(平成30年8月6日, 千葉大学西千葉キャンパス) 普通科第1・2学年10名参加, 千葉大学生の研究についての理解及び質疑応答やディスカッションを実施
 - ・『ポピュリズムと多文化共生』(平成30年9月13日, 千葉県立佐倉高等学校) 第1・2学年生徒参加, 千葉大学法政経学部水島治郎教授によるポピュリズムを中心に, グローバル社会の課題と地域の在り方等についての講義
 - ・国際教養学部教員からの生徒の課題研究に対する個別相談(メールを利用)

- ・国際教養学部教員等と連携し、開発の指導・助言
- (イ) 東京大学
 - ・『シンガポールを知ろう』（平成30年9月4日 千葉県立佐倉高等学校）SGHシンガポール海外研修参加生徒対象に大学留学生からシンガポールの実情に係る講義
 - ・『東京大学SGH研修』（平成30年10月29日 東京大学）普通科第1・2学年15名参加，同大学院生の研究の理解及び課題研究の指導・助言
 - ・大学院総合文化研究科・教養学部教員と連携し，研究開発の指導・助言
- (ウ) 筑波大学
 - ・『筑波大学SGH研修』（平成30年10月29日，筑波大学）普通科第1・2学年39名参加，筑波大学人文社会系毛利亜紀助教の模擬授業
- (エ) 東京外国語大学
 - ・『東京外国語大学SGH研修』（平成30年10月29日，東京外国語大学）普通科第1・2学年18名参加，言語文化学部藤縄康弘教授の模擬授業
- キ 企業・国際機関等との連携（研究開発6）
 - (ア) 日本政策金融公庫
 - ・普通科第2学年対象にビジネス課題の解決に向けた指導・助言（平成30年7月10日・7月11日，7月20日，本校及び日本政策金融公庫千葉支店）
 - (イ) 国立歴史民俗博物館
 - ・『佐倉を知る』（平成30年4月17日，国立歴史民俗博物館，佐倉市内）第1学年325名参加，博物館の利用方法等を学習
 - ・『歴博を知ろう！』（平成30年8月22日，国立歴史民俗博物館）普通科第1学年18名参加，国立歴史民俗博物館樋浦郷子准教授の説明により，近代の歴史及び博物館の効果的な利用方法について学習
 - (ウ) 東京ジャーミイ・トルコ文化センター
 - ・『東京ジャーミイ・トルコ文化センターと江戸東京博物館』（平成30年8月3日，東京ジャーミイ・トルコ文化センター）普通科第1学年40名参加，イスラム文化について学習
- ク 教育課程の編成（課題研究以外の研究開発1）
 - ・学校設定教科「グローバルラーニング」に学校設定科目「GLコミュニケーション英語」（普通科1年3単位・2年4単位），「GL英語研究」（普通科1・2年各2単位）を設定し，オールイングリッシュの授業により，グローバルな課題を教材に取り上げ，プレゼンテーションやディベート等の活動を取り入れ，英語でのコミュニケーション能力の向上に重点的に取り組んでいる。
- ケ 英語力，英語を用いてのコミュニケーション能力の育成（課題研究以外の研究開発2）
 - (ア) 英語力向上対策講座
 - 実用英語技能検定試験2級以上取得を目指し，面接講座を実施，普通科第1・2学年38名参加
 - (イ) 英語を用いたコミュニケーションの機会
 - KOLEJ ISLAM SULTAN ALAM SHAH 校（マレーシア）（平成30年12月10日）ディスカッション・交流を実施，普通科生徒82名が参加，ドワードカレッジ生徒5名との交流（平成30年5月2日）に普通科生徒122名が参加し，授業体験，書道体験，交流等を実施
- コ 地域や同窓会との連携（研究開発3）
 - ・SGHドイツ海外研修事前研修においてデュッセルドルフでビジネス経験の豊かな同窓生寒郡茂樹氏の講義を実施，海外研修参加者11名が参加，
 - ・佐倉市内の小学校と連携し，課題研究に係る生徒による小学校での授業を実施
 - ・佐倉市と連携し，地域活性化に向けたワークショップを実施

7 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 「研究開発1」「研究開発以外の研究開発2・3」

ア 目標の進捗状況

「課題を解決する能力」「創造的提案を行う発信力」「英語力」を身に付けさせることを目標に、概ね計画どおり実施した。

イ 検証方法

生徒によるアンケート（平成30年6月と平成31年2月（3年生は11月）に実施）、課題研究の発表の件数、進路希望の変容、留学生等の外部からの評価、英語検定等の結果

ウ 成果

1年生は、取り上げた課題の解決に向けて研究の方向を明確にして円滑に研究を進め、2年生は、グループごとに行政機関、地域の商店、小学校、NPO 法人等の協力を得て、社会と関わりながら調査や検証を行ない、課題解決に向けた具体的な提案を発表することができた。2月のアンケート「日本人の立場で、国際的な文化や社会の対立を排除し、その融和を実現する方法を考えている」について、2年生の肯定的回答率は51%であり、平成30年2月から16.8ポイント増えている。また、校外において課題研究の発表数は9件、SGUへの進学を希望する3年生は、平成30年2月から10.3ポイント上昇し、76.2%となった。学校設定科目「GLコミュニケーション英語」においてオールイングリッシュの授業を展開するとともに、課題研究発表会では1年生は全員が英語で発表を行い、生徒の英語による発話機会を多く取り入れることができた。英語検定2級以上取得者は2年生169名であり前年度の2年生から56名増加した。

エ 評価

1年生の「GL探究」の教材の改善、実施内容の改善により、円滑に研究を進めることができている。2年生については、上級生の研究方法等を参考にすることで、生徒の主体的な探究活動に結びついた。「課題解決能力」について「求めているレベルに概ね達している」以上の自己評価をした生徒は7月の65%から91%に増加しており、研究の過程や成果から課題解決能力が向上したと捉えている。「GLコミュニケーション英語」、英語でのプレゼンテーション、海外研修、留学生等との交流が英語力向上に有効であった。課題研究を進める上での教材、課題研究を行なう時間の確保、英語での対応力の養成について改善が必要である。

(2) 「研究開発2・3・5・6」及び「課題研究以外の研究開発1」

ア 目標の進捗状況

「日本の歴史・伝統・文化に対する理解の深化」「思考力・判断力・表現力・情報活用能力」「グローバルな社会課題に対する関心・意欲・探究心」「コミュニケーション能力」を身に付けさせることを目標に、概ね計画どおり実施した。

イ 検証方法

生徒、保護者によるアンケート及び課題研究等の成果の分析

ウ 成果

2月のアンケート「日本の歴史・伝統・文化について語るができる」については、2・3年生は76%を超える肯定的回答率となった。1年生については73.4%であった。「日本と世界との歴史的つながりを踏まえ、日本の未来の在り方を志向し、グローバルな視点で歴史、伝統、文化、芸術、政治、経済、環境等について考えることができる」については、肯定的回答率が生徒は3年生59.5%、2年生63.2%、1年生59.6%であった。「グローバルな社会課題に対する関心が高く、主体的に社会課題を探究しようとしている」については、肯定的回答率が1年生は56.6%であり昨年度の1年生よりも6.6ポイント高い。1分間スピーチや進捗状況報告等、発表する機会を増やしたが、生徒は目的を理解して取り組むことができた。国内グローバル研修の参加人数を増やし「GLコミュニケーション英語」でのアクティビティを取り入れることで、英語のコミュニケーション能力の向上に取り組めた。

エ 評価

課題研究に「日本の歴史・伝統・文化」を関係づけることで理解が深まった。グローバルな社会課題に対する関心・意欲・探究心を高める上では「GL探究」「GLアクティブ」における大学や関係機関との連携（研究開発5・6）が有効であった。国内グローバル研修（研究開発3）は、参加人数を増やすことで生徒の英語でのコミュニケーション能力を高めようとする意欲に結びついている。学校設定教科（研究開発2）については、グローバルな視点を重視した授業や科目横断的内容を取り入れる授業を行うことで、課題研究と関係づけて学習することができ効果的であった。生徒同士のコミュニケーションの在り方の改善が必要である。

(3) 「研究開発4」

ア 目標の進捗状況

「日本と諸外国を比較検討し異文化を理解しより良き未来を指向する力」の育成を目標に、概ね計画どおり実施した。

イ 検証方法

生徒の報告書の分析

ウ 成果

2年生の参加した4か国の研修では、現地の高校生等に課題研究に係るプレゼンテーションとディスカッションを行うとともに、研究に係る調査を実施した。アンケートによると、研修を通じて84%の生徒が新たな視点を得たと回答しており、研究の見直しを図ることができた。オランダ派遣については、ライデン大学学生等とのディスカッションやフィールドワークを経験し、課題研究を進める上で有効であった。

エ 評価

海外グローバル研修を通して生徒が研究に取り上げた課題について新たな視点を獲得等、課題研究を深める上で有効であり、当該生徒の所属するグループの研究は、調査をもとに実現可能な解決策が具体的に示されている。海外研修に参加した生徒は、ルーブリック評価も他の生徒と比較すると自己評価が高い。また、海外で英語を用いる経験から英語の学習の必要性を生徒自ら認識することができた。

8 次年度以降の課題及び改善点

(1) 課題研究（研究開発1）

ア 中間評価で指摘された「特定の教科以外の教科についてもプログラムに位置づける」ことが課題である。校務分掌に探究学習部を新設し、全教科の職員が所属し、全教科で課題研究に取り組める体制を再構築することで、改善する。

イ 引き続き課題研究を通して身に付けた能力を生徒自身が把握し、主体的に学習に取り組めるよう客観的でわかりやすい評価に改善する必要がある。

(2) 教育課程の編成（研究開発2）

生徒が目的を的確に捉えて課題研究に取り組めるよう、授業時間の確保が必要である。1年次のGL探究（総合的な探究の時間）を2単位に増単することで改善する。

(3) 海外グローバル研修（研究開発4）

英語科教員の負担が大きくなるように事前指導の内容を検討する必要がある。

(4) 教育課程の編成（課題研究以外の研究開発1）

引き続きGLコミュニケーション英語において課題研究と関連付けた授業を展開する。

(5) 英語力、英語を用いてのコミュニケーション能力の育成（課題研究以外の研究開発2）

実用英語技能検定対策講座について、参加人数に対応できるよう外部人材を活用する。

【担当者】

担当課	教育振興部学習指導課	T E L	043-223-4056
氏 名	小西 一央	F A X	043-221-6580
職 名	指導主事	e-mail	k.knsh2@pref.chiba.lg.jp